

戦略的研究プログラム 気候変動適応研究プログラム

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- 適応計画で考えるメニューの一覧を示して欲しい。適応策の検討で、何を判断基準とするのか、案があれば示して欲しい。
- 気候変動影響を重点対象地域での観測データ等を用いて解明することは基本であり、重要だと思われる。全球やアジアといった広域スケールから地方公共団体スケールまでを対象とする場合、国際的な連携が不可欠であろう。他の国々からの観測データは公開されているか。
- A-PLAT や AP-PLAT のような情報発信を行なっている国はあるか。
- 特に地球温暖化の中でイネをはじめとする農作物は実態把握だけではなく、品種改良など適応策などについても示されると、A-PLAT や AP-PLAT を通して、人々の関心がより高まるのではないか。

今後への期待など

- 気候変動適応策を実装するためには、温暖化影響の実況監視と気候変動予測の精度評価が必要である。温暖化影響プロセスを詳細に検証する手法の確立を検討していただきたい。

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 適応計画で考慮すべき事項に関しては、環境省提供のマニュアルや気候変動適応センターの職員が主導して開発したISO14092 などがあります。また、適応策の検討に必要な事項については、IPCC の報告書等でまとめられているものもありますので、このような情報を気候変動適応情報プラットフォーム(A-PLAT)から適切に公表するようにいたします。
- ②すでに中心的に参画している「地球規模の温暖化の影響評価に関する国際プロジェクト Inter-Sectoral Impact Model Intercomparison Project (ISI-MIP)」に加えて、アジアの研究者とのネットワーク構築にも努め、NIES がすでに保有している観測データの拡充に努めます。
- ③A-PLAT や AP-PLAT のような情報発信を行なっている国は多数あります。現在、気候変動適応センターでは、10 か国を超える気候変動適応プラットフォーム実務者とネットワークを構築し、年一回の会合や情報交換を実施しています。今後はこのネットワークの強化に努めます。
- ④ご指摘いただいたように、適応策の例示にも努めるため、Infographic の技法を用いて適応策の解説書を作成しており、令和三年度から順次公開を予定しております。
- ⑤温暖化影響プロセスを詳細に検証する手法を確立し、適応策実装に資する科学的知見の創出に努めます。